

第2回認知症の人にやさしいまちづくりに関する有識者会議

平成29年6月7日（水）

認知症の人にやさしいまちづくり

－理念と活動の国内外の動向－



kiyoshi.maeda, md

前田 潔

お話しの内容

- **Dementia Friendly Community (DFC) の理念**
- **DFCにおける海外の動向**
 - イギリス、スコットランド、オランダ、ベルギー、台湾
- **DFCにおける国内の動向**
 - 「認知症の人にやさしいまちづくりガイド」(H26厚労省老人保健健康等増進事業)
 - 静岡県富士宮市/福岡県大牟田市/京都府宇治市/

■ DFCの理念

Dementia Friendly Community(DFC)

認知症の人にやさしいまち

- DFCは、今世紀の初頭より、認知症に対する偏見の解消、差別の撤廃、認知症の人の社会包摂、社会参加の促進を目指す活動である。
- その理念と戦略は、認知症の人の主体的な参加と発言によって実質化、深化している。
- 2001年にスコットランド・アルツハイマー病協会の作成した「Creating Dementia-Friendly Communities; A Guide」のなかで用いられた。
- そのなかで、「認知症の人は、いまなお、社会から排除されており、孤立していると感じている」と記されている。
- 2015年1月に政府が発表した「新オレンジプラン」にも「認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて」という副題が掲げられている。

■ DFC –海外での動向–

DFC、各国の動き

- イギリスでは、2012年以來、DFCの活動が活発化し、「本人が希望するcommunityのなかで暮らせるようにすること」
- スコットランドでは、「Nothing about us without us」をスローガンに、認知症当事者団体「スコットランド認知症ワーキンググループ」が発足。同時にpost diagnosis support one yearが始まる（2013）。
- オランダでは、1997年に、アルツハイマー・カフェが作られ、現在、230になっている。さらにdementia friends 100万人養成の計画が立てられている。
- ベルギーでは、2010年、ブルージュという都市が、DFCを宣言。「一緒にdementia friendlyなブルージュを」
- 台湾では、2013年にDementia Friendly Store、2014年にはDementia Friendly Clinicが始まった。

■ DFC -国内の動向-

認知症関連まちづくり-国内動向(4/4)

* 2015年3月発行

認知症の人にやさしい まちづくりガイド

セクター・世代を超えて、取り組みを広げるためのヒント



認知症の人にやさしいまちづくりガイド

セクター・世代を超えて、取り組みを広げるためのヒント



国際大学 グローバル・コミュニケーション・センター
認知症フレンドリージャパン・イニシアチブ

平成26年度 厚生労働省 老人保健健康増進等事業
認知症の人にやさしいまちづくりの推進に関する調査研究事業

国際大学 グローバル・コミュニケーション・センター <http://www.gloc.ac.jp/project/dementia/>
認知症フレンドリージャパン・イニシアチブ <http://dementia-friendly-japan.jp/>

協力：株式会社 スマートエイジング 株式会社 浜瀬総合研究所 株式会社 富士通研究所
電子デザイン：アルファデザイン

平成26年度 厚生労働省 老人保健健康増進等事業 認知症の人にやさしいまちづくりの推進に関する調査研究事業

2015.03発行

国内動向：冊子「認知症の人にやさしいまちづくりガイド」 (1/4)

- ▶ 地域の多様な人たちによる取り組みを発展させている事例に注目して、インタビュー調査をしたことからわかったこと

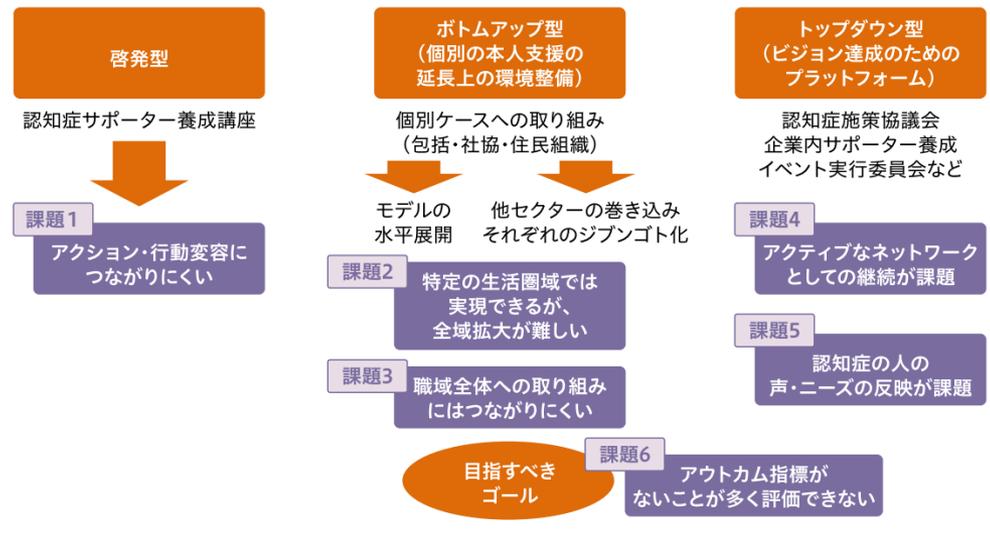
まちづくりの4つの領域

国内外の情報を整理すると、認知症の人に優しいまちづくりの目指すことは、主に4つの領域に分けられる。



DFC: Dementia Friendly Community (認知症の人にやさしいまち)

まちづくりの3つのアプローチと課題



国内動向：冊子「認知症の人にやさしいまちづくりガイド」 (2/4)

▷ 静岡県富士宮市の取り組み

- ・認知症サポーター養成講座や地域イベントの企画に、**認知症の人自身が参加**することを重視

- 高校生向け講座で**認知症の人を講師**に

➡生徒の間には、具体的に地域で暮らす人のイメージが作られた



- 「認知症の人のソフトボール大会」

➡毎月行われる実行委員会に**認知症の人が参加**することで、常にゴールを意識しながら、対話と議論が進んでいる

国内動向：冊子「認知症の人にやさしいまちづくりガイド」 (3/4)

▷ **福岡県大牟田市**の取り組み

- ・セクターを超えて、お互いが得する仕組みを重視
- 地元商店街や学校関係者、福祉関係者の連携が成功

➡「自分の住む地域に買い物をする場所がない」との高齢者の声を聴き、

お店が施設や介護施設への出張サービスを行っている



- 地元中学校では、地域学習の3年間プログラムに、認知症をテーマに
- ➡徘徊模擬訓練に参加、高齢者とペアになって商店街を訪ね、気づいたことを市役所に提言する等が行われている

国内動向：京都府宇治市の取り組み(1/4)

▷ 認知症カフェの活用を重視

宇治市でのカフェの開設(2012年12月)

- ・京都府立洛南病院 森俊夫副院長が宇治市の要請により、宇治市内のレストランで当事者と家族を中心に開催した

- ・その後、森医師を中心に医療・福祉スタッフ、ボランティアで、月1回、場所を変えながら実施



- ・2013年、宇治市の事業として公社が引き継ぎ、市内4圏域で開催

国内動向：冊子「認知症の人にやさしいまちづくりガイド」 (4/4)

調査で分かったこと



6つの課題への示唆



各地の取り組みには、課題を突破するための重要なヒントがありました。
今後、まち同士が互いの取り組みに学び合い、課題をひとつずつ突破していくことが、
日本各地のまちづくりの加速へとつながっていきます。

課題1

アクション・行動変容に
つながりにくい

1. 知識から体験へ

- ・座学による知識伝達(「正しい病気の理解」といった医学情報)に偏った現状
- ・認知症の人と出会う場づくり、イベントや訓練などの行動を伴う活動、認知症の人と一緒に何かをする体験など、気づきから行動変容につながる設計を重視
- 大牟田模擬訓練、鎌倉清掃活動、富士宮ソフトボール大会

課題3

職域全体への取り組み
にはつながりにくい

3. ビジネスセクターのイニシアチブ

- ・個人商店などを除くと、企業のトップダウンのイニシアチブが必要
- ・マニュアルや職場研修を通じた行動変容を促すプログラム
- イオンの全社の方針、英国の認知症フレンドリー金融憲章

課題5

認知症の人の
声・ニーズの反映が課題

5. 多様な参加方法

- ・当事者視点が大事なのは理解できるが、誰に聞いて、どのように反映させればよいか各地で手探り状況。聞き取り調査・アンケートだけでなく、施策や企業の取り組みの企画の場に認知症の人自身が参加する、認知症カフェやイベントなどを通じてなど認知症の人との接点を増やすなど方法は多様。

課題2

特定の生活圏域では実現
できるが、全域拡大が難しい

2. 民間のプラットフォーム

- ・生活圏域の課題取り組む人と、全域課題で取り組む人が、課題意識を共有し、出来る領域からスタートするプラットフォームが必要
- ・公平性・代表性の制約を受ける自治体はこの役割を担うのが難しい
- 富士宮イベント実行委員会、町田ワークショップ、英国DAAなど

課題4

アクティブなネットワーク
としての継続が課題

4. 手挙げ方式で始める

- ・形式的な連携やプラットフォームは、職種や部署の利害対立から形骸化の傾向
- ・できる人・グループ・部署から、できることからスタートする
- ・立ち返る原点として(利害対立を克服する手段として)の認知症の人の声
- 富士宮のイベント実行委員会、京都式アイメッセージ、大牟田商店街

課題6

アウトカム指標が
ないことが多く評価できない

6. アウトカム指標を設定してみる

- ・認知症サポーターの人数のようなアウトプット指標ではなく、認知症の人の暮らしやすさが変化したかどうか等、まずは何かアウトカム指標の設定してみる
- ・手法の標準化にはまだできていないが、まず何か設定することでマイルドセットの変化が期待される。
- 京都の検証プロセス

認知症の人にやさしいまち

Empowering people with dementia to have high aspirations, confidence and know they can contribute to society

認知症の人が希望と自信をもち、社会への貢献が可能となる地域社会

認知症の人の視点に沿った地域づくり

Shaping communities around the views of people with dementia and their carers

Empowering people with dementia and recognising their contribution

認知症の人の貢献

Ensuring early diagnosis, personalised and integrated care is the norm

早期診断、適切なケア

Businesses and services that respond to customers with dementia

必要なお店と適切なサービス

Maintaining independence by delivering community-based solutions

自立した生活

Ensuring that activities include people with dementia

運動しやすい施設

Appropriate transport

交通手段

Easy to navigate physical environments

わかりやすい環境

Challenging stigma and building awareness

偏見の払拭

Befrienders helping people with dementia engage in community life

地域生活の支援者

Becoming dementia friendly means:

Building dementia friendly communities, Alzheimer's Society

kiyoshi maeda, md